

# 小笠原諸島における公共施設の状況について

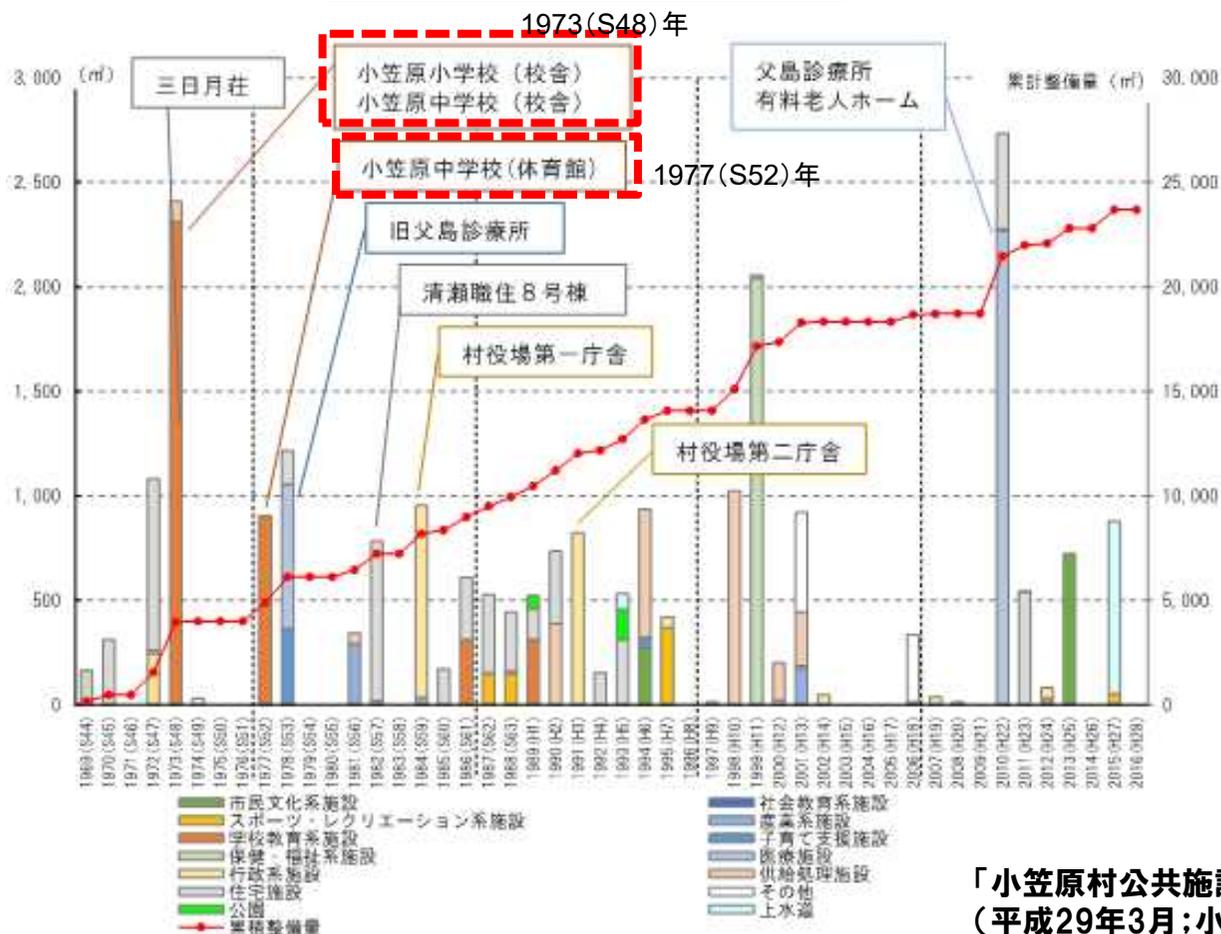
---

# 小笠原村所管公共施設の概況

## 課題

- 小笠原諸島が日本に返還されてから50年以上が経過し、返還後整備してきた公共施設等が更新時期を迎えており、公共施設の老朽化が課題となっている。
- また、小笠原諸島は建設資材の供給地である本土から約1,000km離れており、本土や他の離島に比べ、工事費が高くなっている。

### 建築年度別面積(父島)



「小笠原村公共施設等総合管理計画」(注) 1  
(平成29年3月;小笠原村)より引用

# 小笠原村所管公共施設の概況

## 建築年度別面積 (母島)

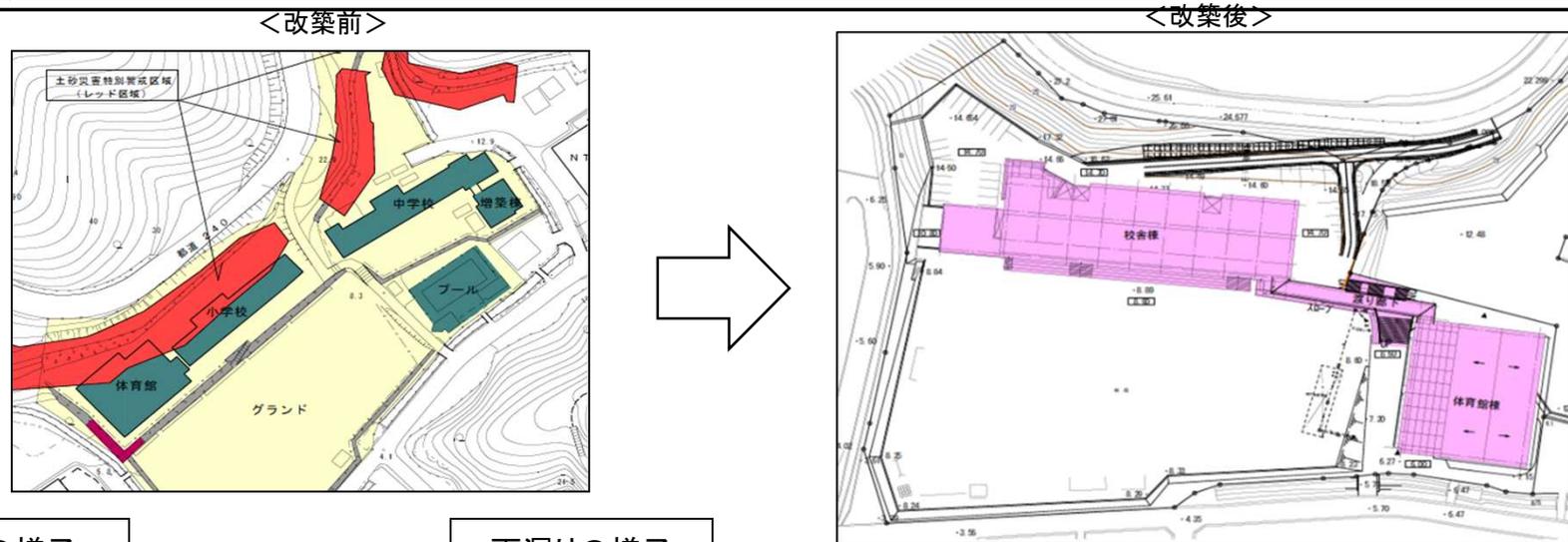


(注)「小笠原村公共施設等総合管理計画」(平成29年3月;小笠原村)とは、国が平成25年に公表した「インフラ長寿命化基本計画」において、地方公共団体に策定が期待されている「インフラ長寿命化計画(行動計画)」に該当するもの。小笠原村は、平成26年に総務省が示した「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」に基づき、公共施設等の一体的なマネジメントの方向性を示すものとして本計画を策定。

# (参考)父島の小中学校整備

- 現在の父島の小中学校は、昭和47年に中学校、48年に小学校が整備され築後45年以上が経過し、塩害や台風被害、紫外線等により老朽化が進んでいる。また、小笠原小学校の普通教室の面積は53.6㎡と、一般的な教室（63～74㎡）に比べ非常に狭く、小笠原中学校では、教室数が不足している。小中学校ともに空き教室がないため、多子化が進んでいる小笠原において、将来想定される1学年複数学級や、IT教育、特別支援教育、習熟度別学習といった新たな教育にも対応が困難であり、段差等によりバリアフリーの対応も困難な状況にある。
- これらの課題を解消するため、小笠原小学校・小笠原中学校の校舎、両校共用の屋内運動場（体育館）・屋外プールの改築を進めていく。
- 事業費総額約70億円。工期は令和11年度まで（プール体育館棟R4-6、斜面对策工R7、校舎棟R8-10、解体等R11）

イメージ図



教室の様子



第5学年教室

雨漏りの様子



体育館



音楽室（小学校：増築分）

# (参考)小笠原諸島における工事費

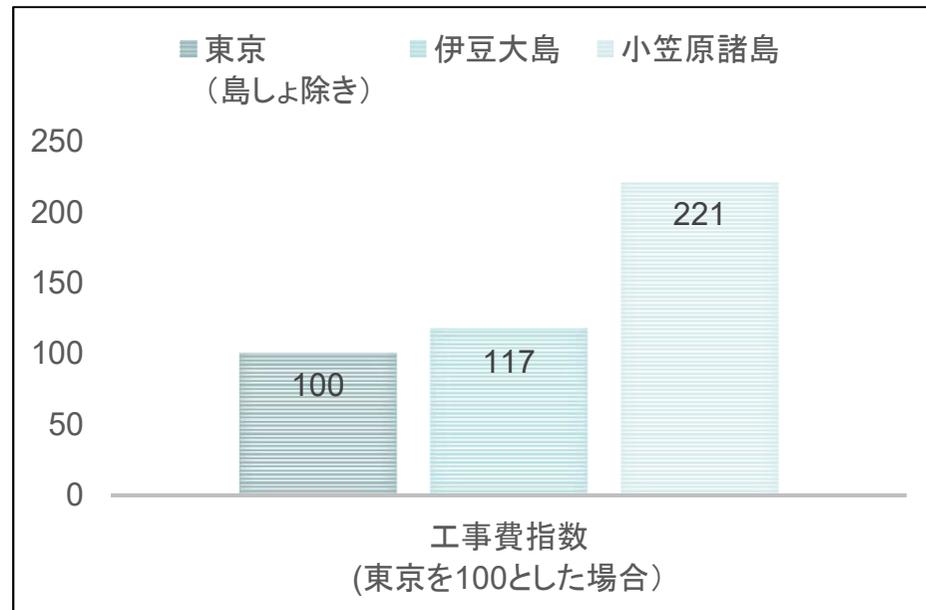
## (参考)工事費指数

- 小笠原諸島の工事費は、東京（島しょ除き）の約2.2倍、伊豆大島の約1.9倍となっている。

※令和5年度新営予算単価(国土交通省大臣官房官庁営繕部(注))  
[https://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun\\_touitukijyun\\_shineiyosantanka.htm](https://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_touitukijyun_shineiyosantanka.htm)

東京(島しょ除き)を100とした場合の工事費指数  
 伊豆大島117、小笠原諸島221

(注)国土交通省官庁営繕部及び地方整備局等営繕部が官庁施設の営繕計画を実施するための基準として制定。各地域における材料価格、労務賃金その他の価格の相違に対して算定したもの。



## (参考)設計材料単価

- 工事積算に用いる設計材料単価について、本土、伊豆大島、小笠原諸島では大きな開きがある。

例 港湾資材の生コンクリート  
 (18N、W/C≤65%、スランプ8cm)

東京湾	14,400円/m <sup>3</sup>
伊豆大島	22,400円/m <sup>3</sup>
父島	39,800円/m <sup>3</sup>
母島	41,000円/m <sup>3</sup>

(出典) 令和4年度 東京都工事設計単価表 (東京都財務局)  
<https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kentikuhozen/eizen-zen-tanka.htm>

東京都が物価調査機関に委託して独自に調査し、市場の実勢取引価格をもとに設定した設計材料単価。

